

8月4、5日 大分大会特集⑤

Newspaper In Education

18歳選挙権の導入により、主権者としての自覚を促し、必要な知識と判断力の習熟を進める教育の推進が、より一層求められている。しかし、高校卒業後は働く・進学しようとする生徒にとって、18歳への引き下げがなくとも、社会に対する関心や問題意識は、本来必要不可欠なものであるはずだ。どのように社会にどう参加するのかは、



隙間時間狙う日々

小坂 吏香

自分の生活に直接関わるし、大学という学問研究の場でも、社会に貢献するためには何ができるのかという学びが求められている。労働も学問も、社会と無関係にはあり得ない。

私の勤務する学校は全日制普通科で、ほとんどの生徒が大学進学を希望している。入試に応える力を養うべく、各教科の学習に一生懸命励んでいる。一方で、部活動に加入している生徒も多く、忙しい毎日を送っている。だから、残念ながら新聞を読む時間はあまりないらしい。

そんな忙しい生徒たちではあるが、人ごとではなく自分自身のこととして、社会を知る・考えるということをしてもらいたい。



選んだ記事を基に話し合う生徒

（大分舞鶴高校教諭、NIE アドバイザー）

生徒の感想

表現力、文章力をつけたい

▽谷川智巳さん

(1年)

新聞は打ち込んでいるレスリング関係の記事以外それほど読んだことはなかったが、注目されているニュースが一つに集められている。新聞を使った学習で、たくさん表現力や文章力を付けていきたい。自分の考えたことを、新聞に載せられたうれしい。

関心湧き楽しい「切り抜き」

▽大浜裕騎さん

(2年)

1年のとき、切り抜きグランプリに参加了。興味ある記事を張り付けるのが楽しく、興味ない分野にも関心が湧いてきた。教科書以外にいろいろな発見がある。毎日、なるべく新聞を読み、国内外で何が起きているかについていける人間になりたい。



記事を選んだ理由を話す1年生に2年生がアドバイス

「2年生と1年生、互いをあまり知りません。NIEを使って自己紹介や交流をしましょう」。安東慎一郎教諭の指示を合図に、図書室に集まつた1、2年生が2人1組で、一緒に新聞をめくり始めた。1年生が入学式の日の新聞を読み、気になった記事を理由も添えてピックアップ。2年生が助言を加えた上で、選んだ記事を発表、自分の興味や関心を全員に知つてもらう。

日本文理大学付属高校の取り組みは読む、書く以外にも幅広い。生徒が下から取れる新聞ストックを発明し特許を出願したり、テレビ電話を使った新聞記事の相互紹介を通じてタイの高校と交流したり。新聞は発想、手段を広げる一つの材料として溶け込む。「教科というより学校活動全体。新しい発想が生まれ、知らないかった生徒の一面も見える」と安東教諭。選んだ記事の発表では、日本人

記事選び自分を表現

社会とのつながり意識

野球選手の大リーグでの活躍、ボニンントン選手の不祥事、大分トリニータユースチームの話題など、スポーツ関連が多かった。一方で、県南農肥地区に咲き誇る花の話題を取り上げた生徒も。2年生からは「前に出てこれだけ堂々と発表できるのはすごい」「分かりやすく説明してくれた」と感想が挙がり、1年生に「一日置いた様子だった」。

高校という発達段階で「学校だけでなく、社会ともつながっている」という意識を持つてもらいたい」と安東教諭。この授業でも「い



入学式の日の新聞から気になる記事を選ぶ生徒



教育への新聞活用を探る第21回NIE全国大会が8月4、5の両日、大分市のホルトホール大分などで開かれる。スローガンは「新聞でわくわく 社会と向き合うNIE」。新聞と出会う幼稚園から、社会とつながる大学まで、発達段階に応じた県内の実践例を報告する。

取り組みの狙い
研究会での成果実践

安東 慎一郎教諭

新聞の読み方について説明する安東慎一郎教諭



本校では社会性を高めるためのキャリア教育、出前講座、ボランティア活動などに力を入れている。NIEもその手段の一つ。生徒にはNIEなどを通じ、社会とつながっていることを意識して生活してほしいと考えている。

自分自身も県NIE実践研究会に参加。多くのヒントを得て、実践に活用させてもらっている。今回の授業も、そのワークショップで紹介された取り組み。1、2年生を対象に「新聞でエンカウンター」を実施し、新聞を使って交流した。

生徒同士が興味ある新聞記事を紹介し合うことで相互理解し、良好な人間関係をつくることを狙った。1年生に本校のNIE活動を紹介し、新聞に興味を持つてもらう目的もある。

予想通り? ほとんどの生徒は新聞を読んでおらず、多くの生徒が関心を持ったのはスポーツの記事だった。しかし、スポーツ以外の記事を紹介すると生徒は興味を示したようだった。

これからも生徒中心の学校づくりや、「わくわく」するNIEに生徒と一緒に取り組みたい。